

とおたるけあ



第22号



日本医療機能評価機構認定病院



医療機関が抱える消費税の負担問題



三愛病院 法人本部 局長 佐藤 卓也

昨年4月1日付で、法人本部 事務局長を拝命した佐藤です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。2014年4月から消費税が8%へと増税になりました。本年10月からの引き上げは延期されたものの、2017年4月には10%への再増税が予定されています。一方で、ほとんどの国民が意識していないと言われている「医療機関が抱える消費税の負担問題」があります。

したがって、増税分は全て医療機関のコストとしてはね返ってくるのです。医療機関が負担している損害、いわゆる「損税」は病院の規模にもよりますが、年間で5000万円から数億円にもなると言われています。消費税が8%となった今、その負担額は1.6倍、10%になれば2倍になってしまいます。国は「損税分は診療報酬に上乗せ済み」と説明していますが、実際には消費税率5%に対して診療報酬は1.53%しか引き上げされておられません。日本医師会の試算では医療機関の実質消費税負担は2.22%であり、少なくとも0.69%分は「損税」が解消されていないとしています。医療は国民の生命や健康維持に直接関わる重要なものであることから、消費税を非課税にすること自体は政策的配慮として正しい判断だと思います。しかし、医療機関の経営に与える影響は余りにも大きすぎます。国民負担が増大しないことを前提とした「ゼロ税率」への改定等、国は早急に対策を講じてほしいものです。

医療費には消費税がかかっていません。非課税なので、マスコミでは「医療費は消費税がかからないので増税の影響を受けない」などと報道していますが、その説明は余りにも表面的なものに過ぎません。なぜなら利用者が窓口で支払う医療費には消費税が発生しませんが、医療機関が医薬材料費や医療機器を仕入れる費用には全て消費税が課税されているからです。



特定医療法人
社団千寿会 三愛病院

〒059-0493
北海道登別市中登別町24番地12
TEL (0143) 83-1111
FAX (0143) 83-1361

<直通TEL>
歯科口腔外科 83-3991
医療福祉相談室 83-3207
地域生活支援室 83-3572
精神科デイケア 83-2520

<URL>
<http://www.sanai-hospital.or.jp>

<E-mail>
post@sanai-hospital.or.jp

<診療科目>
精神科・老年精神科・内科
老年内科・心療内科・循環器内科
消化器内科・リハビリテーション科
皮膚科・泌尿器科・眼科・漢方外来
歯科口腔外科・歯科

<受付時間>
平日 午前8時30分～11時30分
午後1時～4時30分
※午後は予約となります
土曜日 午前8時30分～11時30分



作成：三愛病院 広報委員会

「美味しいパン焼いています」 ピアチェーレの御案内

ピアチェーレ パン製造指導員 小西 日奈子

就労支援センターピアチェーレで製造しているパンを、毎週木曜日三愛病院売店にてあんパンなどの菓子パンを中心に販売しています。毎週火曜日には三愛病院正面玄関前にてオニオンベーコンなどの調理パンを販売し、木曜日とは異なる商品販売しています。

木曜日の販売時間は12:00～13:00、火曜日の販売時間は11:00～12:30となっております。火曜日は外来患者様から病院職員の方まで購入できる時間となっておりますので是非お買い求めください。



その他、外部販売は毎週月曜日に登別市役所、水曜日登別市民プールらくあ、金曜日はしんた21でも行っております。また、イベント等へも対応していますのでご相談ください。

「天皇賜杯」野球部出場しました！

平成26年9月12日に愛媛県で行われました、天皇賜杯 第69回全日本軟式野球大会 ENEOS トーナメントへ三愛病院野球部が出場致しました。チーム一丸となり1回戦を勝利することが出来ました。皆様の御協力・御声援に感謝致します。

戦績

- 1回戦
三愛病院 対 横綱倶楽部 (開催地)
5 - 0
- 2回戦
三愛病院 対 SEC カーボン(株) (京都)
2 - 3



今後とも、御声援のほど宜しく御願ひ申し上げます。

病院理念

- 1. 精神障害者と高齢者を対象に、医療・保健・福祉のトータルケアを目指します。
- 1. 自然環境との調和を大切に「癒される」病院創りを目指します。
- 1. チーム医療により良質な医療と地域に開かれた機能的病院を目指します。
- 1. 常に謙虚に患者様と御家族の気持ちを尊重し、心のこもった医療の提供を目指します。

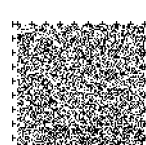
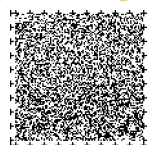
基本方針

当病院は自然環境を生かし、アメニティの充実を図ると共に、精神科ではチーム医療における質の高い医療を追求しています。

法人グループの各施設がそれぞれの役割を担い、医療・保健・福祉における連携と人権を尊重し、患者様並びに御家族との相互理解を深め、地域のニーズに合った信頼される医療の提供をいたします。

患者の権利

- 一人の人間としての尊厳を尊重され、丁寧に敬意をもって扱われる権利を有する。
- 差別されることなく、公平かつ適切で良質な医療を継続して受けられる権利を有する。
- 医療に関する個人情報保護されるとともに、私的なことに干渉されない権利を有する。
- 自己に関する医療行為や医療情報に関して十分な説明を受けることができ、その上で、治療方法に関して選択できる権利を有する。
- 医療費、公的援助に関する情報や説明を受けることができる権利を有する。
- 健康や病気、保健サービスなどについて教育を受ける権利を有する。
- 医療の充実・改善をはかるために、苦情や意見を申し立てることができる権利を有する。



若任医師からのごあいさつ

土田 穰 医師

平成26年1月に内科医として就任いたしました。平成25年12月までは空知中央病院（旧新十津川温泉病院）に7年9ヶ月勤務しておりました。前任地の病院は慢性期医療を担当する合計200床（介護療養型85床、医療療養型115床）で、入院患者の平均年齢が85歳前後でした。お年寄りを毎日お相手とする仕事が主でしたので、当院に参りましても違和感なくすんなりと仕事が継続できましたことを幸せに思っております。ただ200床と534床の相違があり、はじめは迷子になることが多く困った一方で、一日の歩数がそれだけ増えて良いかなとも思いました。私も昨年いわゆる「後期高齢者」の仲間入りを果たしましたのでお手柔らかにどうぞよろしくお願いいたします。これからも新しい職場の医師の一員として、共に一歩一歩、歩みたく重ねてお願い申し上げます。これからは元気で「超高齢者」を目指したいものです。

西村 宏 医師

平成26年4月から勤務しています。以前、近隣の病院で働いていました。地域の勉強会等で千葉先生のお顔を拝見していたのですが、今回先生にお願いしてお世話になる事になった次第です。微力ながら三愛病院、また地域の精神医療の一助になる様にやっていきたいと思っております。各職種の皆様にはかわいがって頂けたらと思います。宜しくお願いします。

山本 哲三 医師

平成26年4月1日から内科医師として勤務しております。前任では札幌社会保険総合病院で急性期疾患中心の診療を行って来ました。この度病院理念にあります様に“医療、保健、福祉のトータルケアを目指す”当院での仕事に参加させていただく事は医師としての本道を歩むことで喜びに堪えません。しかし、いわゆる療養を主体とする病院勤務は初めてですので多少のとまどいもあります。

札幌からの通勤となりますが、体力だけは自身がありますので、登別の豊かな緑と澄んだ空気に心身を癒されながら医局の先輩諸先生、スタッフの皆様のお世話になりながら私自身の医療の質を上げるべく日夜努力したいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

福澤 純 医師

昨年9月に赴任した福澤純と申します。高血圧学会および循環器学会の専門医の資格をもっており、当院では内科・循環器科領域を中心に担当させていただいております。米国に留学し、高血圧が引き起こす心臓病の研究をおこない、帰国後、旭川医科大学の循環器内科教室（心臓病と血管病）で研究、診療および教育に9年間従事していました。その後、恵庭市の教室の関連病院で科長として勤務し、心臓病の原因となる高血圧の方の治療や年間300人程度（北海道で9番目の多さ）のカテーテル治療（ステント）に関わってきました。専門領域の疾患は高齢者の方の罹患率が高いため、当院でも担当させていただく方が増えています。登別市出身で今まで学んできたことを地元に戻元できればと思っています。特に高血圧に関しては専門医は胆振地方では苫小牧の2人の医師を含め3人しかいませんので地域の皆さまのお役にたてればと考えています。よろしく申し上げます。



ときわ病院宮澤仁朗院長にご講演をして頂きました！

平成26年度職員研究会にて、「高齢者研究会」と題して、「特定医療法人さっぽろ悠心の郷 ときわ病院院長 宮澤仁朗先生」にご講演をして頂きました。演題は「アルツハイマー型認知症の新たなスクリーニング検査Me-CDT」です。認知症検査の必要性を判断するための簡易なスクリーニングツールで、外来で簡便に行うことができ、コンピューターによる音声・画像を用いた検査を5問、10分という短時間で正確に行うことができ、患者さんにも受け入れやすい検査になっているということでした。

コンピューターと認知症患者さんの関連は意外な感じもありましたが、日々医学の進歩には驚きがあり、宮澤先生の高齢者医療に対する気概と情熱に引き込まれました。宮澤先生はテレビ番組「イチオシ！モーニング」でお馴染みですが楽しく拝聴させて頂き瞬間に時間が過ぎました。登別市の高齢者数は増加傾向にあり、千寿会として高齢者施設、小規模多機能型居宅介護、訪問看護ステーション、高齢者グループホーム、老健施設、障がい者グループホーム、就労支援施設など多岐にわたり今後も個別トータルケアに努めサービスの向上に繋げてまいります。



「第14回 北海道病院学会」に参加して

看護師 名畑 恵美

平成26年7月5日（土）、ロイトン札幌にて開催されました、『第14回北海道病院学会』に参加し、2年越しに取り組んできた看護研究の発表をさせて頂きました。プレゼンテーションの難しさを痛感し、課題が残りましたが様々なカテゴリーの研究を間近で聞くことにより、改善点が多く見えてきました。看護だけではなく、リハビリテーション部門や栄養部門にも興味深いものがたくさんあり、一人の患者様に対し様々な部門が関わっており、多職種との連携と情報共有の重要性を痛感しました。年々看護研究もレベルアップしており、学会に参加することで、たくさんの学びを深め良い刺激になりました。この機会に得たことを院内の委員会や病棟業務で反映させていきたいと思っております。

「チームの中で看護補助者の力を発揮しよう研修会」

ケアワーカー 矢崎 敬和

北海道看護協会の研修会に参加致しました。内容としては、主に医療・福祉現場で看護補助者に求められる倫理、その他、看護補助者の業務上の責任やチーム医療の機能と役割について学ばせて頂きました。まず、チーム医療とは、医療に従事する多種多様な医療スタッフが高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること。チームが効果的に機能するにはコミュニケーションは欠かせない。平素から、お互いに自由に意見を言い合えるような関係を構築することが必要である。また、倫理とは何か、看護の行為そのものが倫理的である。看護、介護に求められていること、患者・家族が求めるものはあたりまえのケアを行うと言うことです。看護補助者としてのチームの中での役割、重要性、責任、この研修で改めて学び考えさせられました。

北海道社会貢献賞（救急医療功労者）受賞

2014年度 北海道社会貢献賞（救急医療功労者）に当院が選ばれました！

この賞は、長年にわたり地域住民の医療確保や保健衛生、健康管理に尽力し、その功績が顕著な個人や団体が選ばれる賞です。当院の活動がこのような形で表彰されることは本当に嬉しいものです。これからも、この賞に恥じない様、西胆振地域の精神疾患患者様のため適切な医療に貢献して参ります。



※写真左から、原見副看護部長、納谷看護部長、千葉理事長・院長、斉木事務部長